

第2回地方独立行政法人名張市立病院評価委員会 要旨

日時：令和6年8月1日（木）15：00～16：45

場所：名張市武道交流館いきいき

出席者：（委員）伊藤委員、森岡委員、江藤委員、時枝委員、和田委員

（事務局）中村副市長、田中総務部長、藤井病院長、登内顧問、吉岡副院長、
大北事務局長、中西理事、辻川総務企画室長、瀧本総務企画室係長、
吉岡総務企画室主任

傍聴者：計13名

議題	発言者	内容
第2の1（3） 地域医療機関と の役割分担と連 携強化の推進に ついて	和田委員	医療機器の共同利用は非常に難しいのではないかと。敢えて記載した理由は何か。
	中西理事	地域医療支援病院の役割の一つである。
	大北事務局長	CT、MRI、胃カメラ、レントゲンなど、長年シームレスに行っている。
	森岡委員	地域連携室を介し、オーダー用紙を作成し、患者に持参してもらうような仕組み。CT等の医療機器がないので、非常に助かっている。
	和田委員	地域のクリニックとの関係では、地域連携室の対応が非常に重要である。紹介率等も含め、地域連携室の充実を図っていただきたい。
	時枝委員	アに記載されている「紹介率」について、「率」にすると何らかの事情により分母の変化による影響が出ることから、市の総合計画に合わせ「件数」にした方が良いのではないかと。
	大北事務局長	「紹介率」は、「初診患者のうち、紹介状を持参された患者さんの占める割合」のことをいう。ご指摘のように、何らかの事情により変動する者にはなるが、医療においては、一般的な用語である。
	和田委員	市の総合計画においては、市民の皆さんにわかりやすいよう「件数」としている。
伊藤委員長	「紹介率」は、病院の機能指標の一つであり、残して欲しい。 病院機能評価の上でも非常に大事なところであり、地	

	<p>時枝委員</p> <p>伊藤委員長</p> <p>江藤委員</p> <p>中西理事</p> <p>森岡委員</p> <p>伊藤委員長</p>	<p>域医療支援病院の要件の一つである。そういった意味から、適切な言葉かも知れないが、市民の皆さんにわかりやすいよう説明書きを追加するのも一つの手段。市民の目からすると「率」は分かりにくい。「件数」の方が、進捗がわかりやすい。中期目標と総合計画とを使い分けするなど、市民に伝わるようにして欲しい。「率」と「件数」の併記でも良いと思う。</p> <p>ウに記載されている「専門外来の充実」とは、具体的にどのようなことか。</p> <p>「医師不足」、「診療科の偏在」が顕著な地域であることから、地域で不足している診療の分野の専門外来を設置するというところであり、地域医師会と共に当該診療科の実現に向け協議する必要があるということである。</p> <p>地域に診療科がないことで、名張市から流れていくということ、少しでも食い止めていくという意味においても、専門外来を充実していきたい。</p> <p>本来、入院もできた方が良いことから、まずは、外来からという意味においても「専門医療」という表現が適している。</p>
<p>第2の2(1) 医療従事者の確保と専門性の向上について</p>	<p>和田委員</p> <p>大北事務局長</p>	<p>「研修体制の充実」、「専門資格取得の支援」は、看護師の離職防止における一番重要なところであるが、職種別の具体的な目標を記載しても良いのではないかと。中期計画で職種別に記載させていただきたい。</p>
<p>第2の3(1) 患者中心の医療の提供について</p>	<p>和田委員</p> <p>藤井病院長</p> <p>和田委員</p> <p>江藤委員</p>	<p>市立病院の診断・治療方針に対し疑問があるようであれば、セカンドオピニオンを活用して下さいというような積極的な姿勢を示していただくよう、名張市として目標に記載できないか。</p> <p>現在もセカンドオピニオンを希望される方、受診される方がお見えになられ、既に対応している。</p> <p>中期目標は、病院の良さをアピールできる場でもあるので、書き込むべきである。</p> <p>インフォームドコンセントは患者の権利擁護において大変重要な部分である。これを敢えて丁寧に記載さ</p>

	<p>中西理事</p> <p>登内顧問</p> <p>江藤委員</p>	<p>れた理由を教えてください。</p> <p>第1回評価委員会における委員発言から、「医療従事者目線から見る医療従事者の対応」、「患者目線から見る医療従事者の対応」の違いに対応すべく、第1期目の目標ということもあり、敢えて記載をした。</p> <p>インフォームドコンセントは病院機能評価においても重要な項目となっている。「医師が意見を言って、患者がわかりました。」ということで終わってしまう病院が多いという中において、「患者がどう受け止め、納得できたのか」ということの重要性を示されていると理解している。</p> <p>患者の理解度の確認と患者の意思決定を支えるという意味を込めて記載されたというところを理解した。</p>
<p>第2の3(4)</p> <p>職員の接遇向上について</p>	<p>森岡委員</p> <p>大北事務局長</p> <p>時枝委員</p> <p>大北事務局長</p> <p>和田委員</p>	<p>記載内容の一部「改めて認識させ」という表現がキツイと感じる。認識するかしないかはスタッフ次第であることから、もう少し優しい表現に変更できないか。ホテル業界のリッツカールトンの接遇の中で、「お客様への接遇の約束」と「従業員への約束」の2通りのクレドが設定されている。このような「病院スタッフへの約束・覚悟」というものを、ぜひ中期計画で示していただきたい。</p> <p>スタッフに対する「覚悟」を中期計画で示していきたい。</p> <p>今の取組の中で「患者満足度調査」は実施しているか。年1回実施している。</p> <p>年1回は圧倒的に少ない。大した満足度調査ではなくて良いので、全退院患者に対し実施したらどうか。自己満足のような年1回の実施ではなく、もっと頻繁に実施するべきである。</p>
<p>第3の1(1)</p> <p>組織と管理運営体制の確立について</p>	<p>和田委員</p> <p>瀧本係長</p> <p>和田委員</p>	<p>組織の不正を含めた「内部管理体制の強化」を図るにあたり、「内部通報制度」が非常に有効な手段となっている。</p> <p>現在は、市の組織の一部なので、市の「公益通報制度」を活用している。</p> <p>法人化に伴い、新たにつくらないといけない。</p>

サイバーセキュリティについて	和田委員 大北事務局長	最近、病院がサイバー攻撃の標的になっているようである。名張市として、法人に対しサイバー対策について記載する必要があるのではないか。 現在は、市に準拠しているが、医療従事者にそうした考え方が周知されているか不明。法人化に伴い、それらを含めた内部規程を策定する必要がある。
第3の2(3) 働きやすい就労環境の整備について	江藤委員 中西理事 和田委員 中西理事	現在、「職務満足度調査」は実施しているか。 「従業員満足度調査」は実施していない。患者満足度調査(CS)と従業員満足度調査(ES)の重要性は認識している。中期計画に反映いただけるような形で対応させていただく。 従業員のメンタルヘルスの相談体制はどうか。 市のメンタルヘルスを利用させていただけるようになっている。法人化に伴い、そうしたものも設置する必要があると考えている。
第4 財務内容の改善に関する事項について	伊藤委員長 中西理事 伊藤委員長	法人化する一つの目的は「経営面の改善」であり、最終目標としては、「市民の皆さんへのサービスの向上」である。サービスを向上するためには、「健全な経営」が必要である。 間接的ではあるが、市民の負担が大きすぎるということを知っている。この記載だと、あまり変わらないように読める。市民の皆さんは、独法化で大丈夫かと思われている。「採算の合わないところを採算の合うところでカバーしていく」という「経営マインド」は非常に大事である。 不採算事業についても、一定のところまでマイナス幅を狭くし、得意分野でカバーをすることの重要性は認識しているが、地域性ということもあり、経営が困難な状況となっている。 市のお金を使う以上、充実した質の高い医療はあるものの、きちんとした経営ができているかということは、市民からも求められるところである。今後、税収も減ってくると思うが、最終的に残る病院というのは「経営マインド」がある病院である。 市民の皆さんもできないことをしろとは言わないと

		<p>思うが、公立病院の経営が悪いのは「経営マインド」である。「経営が悪ければ、どこかからお金が来る」という意識がいけない。</p> <p>市としては、持続的な医療提供が行えるよう、責任を持ち、理想をきちんとしていくことが大事である。</p>
	中村副市長	<p>人口が減少していく中、病院間の連携を行い、経営を良くしていくことは非常に大切。まずは、市立病院の「経営マインド」を高めていく取組を進めていくことが大事であると思う。</p>
	時枝委員	<p>この中期目標については、気付いたところは全部記載があり、非常に網羅されたものである。しかし、実施する側に立った時、何を優先すべき事項なのかというところが欠けているように感じる。絶対事項と優先事項、この視点を反映できないか。</p>
	伊藤委員長	<p>この目標は網羅的なので、2期でも3期でも良いと思う。患者数を増やすのはマーケティング。伊賀地域は、たくさんの患者が流出している。レベル的にもしっかり対応できるところは留めておくことが一番最初に取り組むこと。これを実現するのは「経営」であり、「運営」ではできない。市民からすれば経営悪くてもやってもらえたらいいが、今、そういう状況ではない。それを決めるのが経営。中期目標に掲げられている事項は、どれも大事だが、強弱があってもいい。1丁目1番地を記載すべきである。</p>
	和田委員	<p>一般的に公立病院では、医事が弱い。市から転勤される職員で構成しては専門家が育たない。プロパー職員を採用し強化を図っているところも多くある。</p>
	森岡委員	<p>患者の流出については、我々としても抑制して欲しい。</p>
	伊藤委員長	<p>伊賀地域の連携は良いが、県境を越えるケースが結構ある。大きな手術や高度な医療という点以外については、市民の皆さんに説明し、伊賀地域で完結できる医療を高めていくことが大事である。</p>

	森岡委員	患者の意見として、潤沢な資金で経営されている医療機関には、余裕があるように感じるようである。収益を高めるためには、入院できる病床数を増やす必要があり、看護師確保は大事である。市立病院には看護専門学校がある。学生たちは、素の目で見ているので、市立病院で働きたいと思ってもらえるような環境整備をお願いしたい。
第5の1地域の医療水準向上への貢献について	和田委員 大北事務局長 伊藤委員長	市民との垣根をもっと低くする意味においても、ボランティアの活用という仕組みを入れてもいいのではないかと。以前は少しいた。現在は、ピアノを弾きに来ていただくなどとなっている。業務支援としてはさせていたっていない。業務支援などのお手伝いという形を計画に反映していただくなど検討して欲しい。
第5の2市及び県の施策への協力について	伊藤委員長 中西理事 伊藤委員長 大北事務局長 和田委員 大北事務局長 森岡委員 森岡委員	第8次医療計画が今年策定され地域医療構想にも続くが、こういった内容を反映させる項目はなかったのか。 令和2年度に地域包括ケア病棟を開設し、地域急性期（今後の回復期）機能を確保した。これ以上、増床すると市民要望の救急など急性期対応が困難になる。今が限界と考えている。 急性期病床は何床か。 急性期が152床で地域包括が48床の計200床である。 地域包括ケアも含め急性期を終えたあとの療養型病床などは地域にあるのか。退院に大きな支障はないのか。 市内に介護医療院含め135床の医療機関がある。回復期等も含めると名張市では補いきれないところがある。 名張市は、特別養護老人ホームやグループホームなど介護の方が結構充実しており、他市と比べても充実している。 「地域医療構想」というのは入れる必要があるの

	中西理事	か。 国及び県が進める事業となることから、市としては記載する必要があると考えている。
	江藤委員 中西理事	「第三者評価」というものは、考えているか。 待遇に関する第三者評価については既に取り組んでいる。「病院機能評価」については、最終的に受ける方向性であると考えている。伊賀地域の病院、また他市の状況としては、市立病院よりも少ない病床規模の医療機関でも受けていることから、1つの基準であるという風に考えている。
	和田委員	中期目標に「病院機能評価」について記載するのはどうか。
	登内顧問	体制が変更になってから、内部統制に時間がかかる。まずは、「市民のために尽くす」ことを第一に掲げるべきである。
	和田委員 大北事務局長	月次決算は実施しているか。 言われているものとは違うと思うが、月単位の収支等については経営層、各所属長と共有させていただいている。
	和田委員	法人化以降は、毎月の理事会で予算との比較等の議論になる。そうした観点からも、月次決算ができる体制を進めていく必要があると考える。
	中村副市長	監査事務局による病院の収支状況に関する監査を例月監査として受けている。決算としては、9月議会において、一般会計、特別会計、企業会計含め、議会の認定を受けるというスケジュールとなっている。
	和田委員	独法化後は、早くしなければならないと思う。